フォーラム
Forum

「独立200周年・革命100周年」を祝った2010年9月のメキシコで考えたこと

国本 伊代（中央大学名誉教授）

2010年はメキシコ国家と国民にとって，独立200周年とメキシコ革命100周年を同時に記念する特別な年となった。連邦政府，州政府，地方自治体などが実行した記念行事は数え切れないほど多く，メディア・学界・市民団体などによるさまざまな催しが盛り沢山に企画された。そして首都メキシコ市で行われた9月15日の夕方から16日の一連の「独立200周年・革命100周年」の記念祭典は，盛大で華麗なものであった。

この一連の祭典に対する批判的な意見は多い。2010年のメキシコは，「内戦」に例えられるほど激化した麻薬カルテルと国家との「麻薬戦争」，国際機関からも是正すべきと指摘されている社会格差の拡大・貧困と不平等の深化・汚職の蔓延と政治不信・劣化する教育など，取り組むべき深刻な課題に直面しているからである。国家や地方自治体が莫大な財源を記念祭典や記念碑的建造物に投入することに強い反対の声が出ても不思議ではない。有力紙『エクセルシオール（Excelsior）』が行なった200周年記念祭典についてのアンケート調査の結果は，「億万長者たちの祭典であり，庶民にとってはささやかな連休の楽しみ」に過ぎず，2010年は上記のような諸問題を抱えた最悪の年として歴史に残るという意見に集約された。実際に2010年のメキシコでは，1億800万人の国民の80％が医療，社会保障，教育など基本的な公的サービスのいずれかを受けられない貧困層に分類され，そのうちの20％は食料すら欠乏する極貧状態にある（『エクセルシオール紙』6月29日）とされる一方で，想像もできないほど豪華な生活を享受する少数の上層と安定した生活を維持する中間層からなる，貧富の格差の大きな社会が出現している。

メキシコ革命の正統な後継者として2000年まで71年間政権を独占的に保持した制度的革命党（PRI）による政治にも多くの問題はあったが，PRI体制崩壊の主要な要因となった新自由主義経済政策と，2代にわたる大統領を連続当選させた現政権与党の国民行動党（PAN）の政治は21世紀のメキシコをずたずたにしている観がある。忘れ去られた先住民や都市の貧困層は30年前とほとんど変わらない状態に陥っており，極端なまでの市場主義経済と競争社会のなかで完全に取り残されてしまっている。そして教育改革を後回しにしてきた長年のつけは，若者たちの学力の著しい低下を引き起こし，15歳で義務教育を終えるのは同年齢層の42％に過ぎない。大学を出ても合理化が進む競争社会で職を得ることのできない，改革の遅れた「名門国立大学」卒の若者がタクシーの運転手や警備会社の警備員となり，少し意欲のある若者は国内の職を捨ててアメリカへ移動する。彼らは未熟練労働者としてアメリカ社会の最底辺で働く従来の移民労働者とは異なる新しいタイプの移民であり，自らの夢を実現するためにあらゆる手段を使って合法的にアメリカに入国している。

ニニス（ninis: los jóvenes que **ni** trabajan **ni** estudian）族と称される「働くこともせず，学校にも行かない」若者が急増して社会問題となる一方で，国民の85％が信者であり世界的にも信仰の篤いカトリック社会であるメキシコで自殺する若者が年間3000人にも達している。同時に，家族の崩壊によって子供や親族の支援を受けられない無収入の高齢者が，街角に1日中じっと座って物乞いをする姿は切ない。

豊かな資源と広大な国土に恵まれ，しかも平等・正義・公正な社会の建設を目指したメキシコ革命を経験しているこの国を，このような姿にしたのはいったい何か。20年，50年先を見据えながら時代の要請と現実に沿った真の改革を怠ってきた政治の責任は重い。政治家は先進国の議員の待遇を上回る報酬と諸手当を享受し，政治改革を拒み，政府は情報の開示を拒否し，国家財政の放漫な支出と杜撰な管理を黙認し，それぞれが権力と利権をめぐる党利党略の政治に終始している。200年前の独立はメキシコ人に祖国を与えてくれたと，カルデロン大統領は誇らしく指摘した。それでは100年前の革命はメキシコ国民に何をもたらしたのだろうか。